



結核しずおか

24号2009年4月24日

発行

財団法人 結核予防会静岡県支部
〒420-0915
静岡市葵区南瀬名町6-20
TEL 054-261-2512
FAX 054-261-9474
Eメール tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp

発行責任者 鈴木美行
印刷 明和印刷株式会社



巻頭言

「経済不況と医療界への影響」

世界経済不況の煽りは物づくり輸出産業だけでなく、医療界にもその影響が少なからず現れてきている観がある。その原因は雇用人材の縮小、時間外労働の削減等の影響により実質的な労働賃金の低下が挙げられる。メタボリックシンドロームに着目して2008年度よりスタートした特定健診や肺結核・肺がん、胃がん検診等の受診率低下は、当に労働者の不安定な賃金が各種検診受診率低下に影響しているのかも知れない。

医療機関では高度かつ効率的医療を提供する目的で高額医療機器の導入やDPCの導入などの手段を施しているが、平成16年度の医師研修制度の影響により勤務医の疲弊や開業等にあいまって診療科の休診など深刻な状況でもある。

放射線機器では虚血性心疾患診断のために多列化MDCT装置、最近では320列CTも稼動しMRI装置では3テスラ、欧米では7テスラも稼動している。最近の画像診断の精度とそのクオリティは格段に向上している。

そのような背景を有する医療機関にもお金がなくては受診すら控えなくてはならない多くの国民の苦しい経済状況のこの時期こそ、国はあらゆる手段を講じるべきではなからうか。

医療の正当化は医師の指示により適正かつ効率的に施行されてきているが医療を受ける側の足が遠のくことは早期発見・早期治療に結びつかないし重篤化した病態で医療機関に受診したときには最早手遅れの結果になりかねない。

この時期こそ社会保障の観点から国民的批判の多い2兆円の定額給付金は医療を受けたくても受けられない人びとに手を差し伸べる資金にすべきではなかったのか。



(社)静岡県放射線技師会
会長 和田 健

胃部デジタル検診車『宝くじ号』完成!!

日本宝くじ協会の公益事業への助成等による自治宝くじの普及宣伝のための補助事業により最新鋭の胃部デジタル検診車が整備されました。

当支部では2台目の宝くじ助成による胃部検診車が平成20年12月24日に導入され、すでに静岡市の胃検診等で活躍しています。これを機会にモニター画像診断にも対応できるソフトを採用し、従来のフィルム診断とモニター画像診断を選択することができ、データの保存管理にも配慮しています。デジタル検診車の利点は、X線被曝線量の減少と撮影済の写真をモニター上で読影しやすい写真に変更が可能なことです。

また、従来から検診会場が狭く実施の困難な検診会場に対応出来るように検診車を導入して来ました。この様な状況に対応できるコンパクト車を作成し、市町及び事業所さまのご要望にもお応えできると思っております。

胃部検診車をデジタル化し、胃がん検診の精度の向上と検診体制の充実を図り、より高度に、より受診者のお近くに、地域の人々の健康維持に役立つべく検診業務に取り組んでいきます。また検診の待ち時間を減らすべく検診方法の改善に努力をしております。ご利用よろしくお祈いします。



あなたの胃は大丈夫！

健康診断に行くと、受診者の方に日本人の胃がんは減っているのではないかと、聞かれることがあります。

しかし、胃がんで死亡する方は増えております。この理由の一つとして、罹患(病気にかかること)数と罹患率、死亡数と死亡率の関係があると考えられます。誰でも望んでいる健康は、年齢とともに自分の体に、目に見えない病気が忍びよっているかも知れません。年に一度は検診を受けることによって自分の健康状態をチェックし、幸せな家庭生活につなげることが大切だと考えます。

市町保健センターの紹介

焼津市保健センター

焼津市は、平成20年11月1日に焼津市と大井川町が合併して新焼津市となり、新たにスタートを切りました。「人が輝き 活気にあふれ 海・山・川の恵みと歩むまち 焼津」を将来都市像として焼津らしさを活かしたまちづくりを目指し、水産物の生産・供給基盤の強化や駿河湾深層水の利活用など海に関する施策を進めています。

健康づくり事業としましては焼津市保健センターを主とし、大井川保健相談センターと2ヵ所で母子保健に関わる健診や子育て教室、大人の健康相談等を行っています。その中で‘焼津らしさ’を活かした取り組みとして、生活習慣病予防教室として駿河湾深層水利用施設・アクアスやいづを利用した「アクアリフレッシュ教室」などを実施しています。また焼津市食育推進計画を策定し、その計画実行に取り組んでいますが、焼津ならではの魚や水産加工品を使った食事メニューの考案・普及を食生活推進協議会等の力を借りて進めています。

検診事業は、焼津市保健センターでは各種がん検診、肝炎健診、歯科健診等を実施しておりますが、胃がん集団検診および結核健診・肺がん検診を結核予防会の検診車にて行っています。

焼津地区の胃がん検診は平成20年度より他の健診・がん検診の受診券とは別に胃がん検診単独の受診券を発行し、集団検診の年間の日程などを載せることにより、分かりやすい検診を目指しました。その結果、胃がん集団検診の受診希望者が増え、実際の受診者は前年度より約1.5倍となりました。

一方で、平成20年度より特定健診・保健指導の制度が始まったことにより、健診の受診のし方・受診場所が大きく変わり戸惑った市民も多くいて、健診やがん検診全体の受診率は前年度よりも落ち込んだ結果となりました。

今年度からは受診率向上を目指して市民の健康づくりへの関心をより高めるとともに、特定健診やがん検診の受け方を改善して分かり易く受け易い健（検）診を推進していきたいと思っております。

管理予防担当 谷村 幸子

ちよっくらいかざあやいう





結核予防週間キャンペーン紹介

静岡市では、毎年結核予防週間（9月24～30日）にあわせて結核予防を呼びかけるキャンペーンを、結核予防会静岡県支部、結核予防婦人会静岡市支部の皆様と実施しています。昨年は9月20日にアピタ静岡店にて、結核の現状と基礎知識などを記したリーフレットや風船などを配布し、結核予防のための年に一度のレントゲン検査を呼びかけました。家族連れの方から高齢の方まで幅広い年代の方に配布することができ、全部で3000部あったリーフレットが1時間半ほどで全て配布終了しました。



結核は、日本では戦後から着実に減少してきていますが、近年減少のペースが鈍ってきています。罹患率（新たな患者の発生率）は人口10万人あたり約20人であり、世界的には日本は中蔓延国と位置づけられています。また、最近では外国人やネットカフェ難民の患者発生などの問題も出てきています。

結核＝過去の病気というイメージからか、普段はあまり気にかけることがないかもしれません。私自身この仕事に就くまでは結核という病気についてまったく関心がなく“昔流行ったとても怖い病気”ほどの認識でした。しかし、まだまだ身近にある病気ですし、市民の方から「家族が結核と診断されました。自分や子どもにうつらないかととても心配です！」といったお電話をいただくことも少なくありません。結核は薬を飲めば治る病気であり、感染が短期間で広まる病気でもありません。全国で年に2000人以上ものひとが死亡する国内最大の感染症ですが、間違った知識も病気と同様に怖いと思います。



結核はいつ身近に起こるかわからない病気です。早期発見ができるように、また起こったときに不安にならないためにも、結核予防キャンペーン等を通じて胸部レントゲン検査受診の必要性を認識していただくとともに、結核の正しい知識の普及に努めていきたいと思っています。

静岡市保健所 保健予防課 山本康太



複十字シール運動の報告とお願い

平成20年度も結核をはじめ、その他胸の病気の撲滅のために、複十字シール運動にご協力いただき誠にありがとうございました。皆様のあたたかい善意にささえられ**目標を上回る実績を得ることができました**。心から感謝申し上げますとともに、今年度も変わらないご協力をお願いいたします。

平成20年度実績報告

1,775万円

第13回結核予防関係婦人団体

中央講習会に参加して



● 静岡県結核予防婦人会 伊東支部長 山田 美恵子 ●

平成21年2月18・19日の2日間、今回初めて目黒区のこまばエミナースを会場に112名の参加で開催されました。3日間かけて行われていた講習が2日という事ですから、今まで以上に中身の濃い講習でした。私は今回2度目の参加です。昨年は伊東支部の研修で御殿場の秩父宮記念公園へも立ち寄り、秩父宮妃殿下と昔の結核予防婦人会の皆さんとのお写真を見せていただきながら10年前と今はどう変わったのか…とても楽しみでした。

白地に赤の複十字の平和と希望の象徴のこの旗の下に開講式が行われ、結核予防婦人会中畔都舎子会長・結核予防会青木正和会長のご挨拶。また、総裁の秋篠宮さまには「皆さまが講習会の成果をそれぞれの地域の活動に十分いかされ、人々が健康で明るく暮らすことができますよう心から願います。」と笑顔で暖かいお言葉があり、記念撮影後も会始まって以来講習会にもご一緒され、その熱心なお姿には感服しました大変励みにもなりました。

1日目は開講式に続いて

- | | | |
|---|-------------|-------|
| 講演1 「結核予防婦人会について」
「複十字シール運動」
「全国結核予防婦人会30周年記念DVD」 | 全結婦事務局長 | 山下 武子 |
| 講演2 ワッハッハッハ体操 | 健康生活研究会副理事長 | 浅野 有信 |
| 講演3 日本の結核の現状 | 結核研究所対策支援部長 | 小林 典子 |

2日目

- | | | |
|---|-----------------|-------|
| 講演4 自分の健康は自分で作る | 東洋医学情報センター専務理事 | 藤井 弘泰 |
| 講演5 タバコと健康問題 | 群馬大学大学院小児科分野準教授 | 望月 博之 |
| 歌唱 「健康の歌」 | 声楽家 | 松田 敏江 |
| 講演6 結核対策…「世界では今」 | 結核研究所名誉所長 | 森 亨 |
| 講演7 結核の無い世界へ～国民運動への展開
「カンボジア結核対策スタディツアー」DVD
班別情報交換会 | STBJ事務局長 | 鈴木 幹久 |

以上盛りだくさんの内容でしたが、講義だけではなく今回は昭和14年に皇后陛下より賜った結核予防の歌「太陽の愛子」を唄うことができました。

ちなみに、この歌を全曲伴奏つきで聴いたのは皆さんが初めてとのこと。班別の情報交換会も時間が足りないくらいで、もっとみなさんの取り組み方をお聞きできたらよかったのに…と思いました。大変忙しい中身の詰まった2日間でしたが、この講習会をとおして認識を新たにし、誇りを持って活動を推進してゆこうと意を新たにしております。参加できましたことを心より感謝申し上げます。

2009年複十字シール紹介

「手品のじかん」



安野光雅氏による作品で、ピエロや動物たちが寄り添い、一緒にマジックをする姿が色鮮やかに、優しいタッチで描かれております。今にもシールの世界から飛び出し、私たちに驚きと興奮で包み込んでくれるような楽しさに満ち溢れています。



会員の和が活動の輪を広げて

静岡県結核予防婦人会 富士宮支部長 佐野 まする

「結核って何?」「えっ、まだ結核はあるの!」と、結核についての意識の低下が懸念されている今、私たち富士宮支部は、富士宮市・芝川町民一人一人に、誰にでもかかる感染症「結核」の正しい知識と理解、その普及啓発活動を地道に進めております。

1. 会員の資質向上のための研鑽

各地区選出の会員が、支部長以下19の役員を担い、会則をもって組織運営され50年の歴史を経て今日に至っています。

例年6月初旬に総会を開催します。年度事業計画を立て研修の充実と活動を広く創出し本会の趣旨を確認し合いながら、人格の形成と会員としての意識の向上に努めます。



2. 結核予防知識の普及・啓発と募金活動

(1) 複十字シール運動

募金活動を通してこの運動の意図や事業、活用についての理解を求める会員各々の日常活動が基本です。

毎年結核予防週間には、富士宮市役所ホール、芝川町ふれあい広場で「複十字シール運動キャンペーン」の開催を継続しています。結核予防・制圧と健康で明るい家庭をつくることを主眼に、広報パネル展と募金活動を行います。また、富士宮駅前十六市での街頭活動は、広く市・町民の関心を高め交流する場にもなっております。

(2) 大型紙しばい「がんばれ!シールぼうや」の作成と実演

結核の常識「がんばれ!シールぼうや」のパンフレットをもとに作成した紙しばいを、会員が出向き実演しています。



老人連合会各支部、地区社会福祉協議会、高齢者学級やよりあい処、地区保健委員との関わりの中で、活動の対象は幼児から高齢者にまで広がっています。

活動が活動を呼び、健康づくりの組織が交流することによって、結核についての理解が序々に高まってきていることを実感します。人と活動の輪の広がり、会員の大きな励みであり楽しく充実した支部活動の源泉となります。

「自分の健康は自分で守る」の自立自尊の精神、基本的生活習慣の確立、複十字シール運動を中心とした結核予防・根絶への啓発活動に向けて、更なる支援と努力に邁進することを会員一同お誓い申し上げます。

静岡県結核予防婦人会 創立50年を迎えて

平成20年度、静岡県結核予防婦人会は創立50年の節目を迎えました。

これを記念し、「本会の歴史・現状」と「複十字シール運動」について、役員・会員および関係者の認識を深め、交流を図るため、また、広く一般に本会について紹介し、今後のさらなる発展を図る機会とすることを趣旨に、静岡市内において『複十字シールパネル展』および『静岡県結核予防婦人会創立50年記念祝賀会』を開催し、盛会裏に終了することができました。

昭和34年、結核事情は好転のきざしをみせてはありましたが、結核撲滅の手段としてレントゲン車による集団検診の必要性が重要視されていました。当時の初代川野辺会長は、婦人の力を健康管理面に生かしたいと考えており、県からの要請も受け本会は創立いたしました。その後も、当時総裁の秩父宮妃殿下の御別邸が御殿場にあったことや隣接の東山荘にて『結核予防関係婦人団体幹部講習会』が毎年開催されていたこともあり、妃殿下は本会に対し過分のお心配りとお励ましをくださり、会員は結核予防への熱意を高揚させ、活動に邁進することができました。川野辺会長の熱心な指導のもと昭和49年には募金額総額全国1位を達成、この成果は村松次期会長・土屋現会長へとも受け継がれ今日に至っております。

時代は変化し、本会の活動も規模縮小化が進んでおります。組織の変革をせざるをえない現状もあります。しかし、結核は過去の疾病ではなく、現在進行形の疾病であることから、つねに新しい知識と情報を得る必要があります。そして、結核を知らない若い世代と一緒に活動していく環境を作り、未来に伝えていくことが大切です。何が必要とされているか何ができるかを今一度考え、情報交換・意志の交流を密にし、引き続き、ひとりひとりが自分たちの活動に誇りと使命感をもって取り組めることが重要です。

本会が創立50年を迎えることができましたのも会員および関係者各位のおかげと心より感謝申し上げます。半世紀に渡るこの尊い歴史・活動を絶やさぬよう、本会のあり方を模索しながら、結核予防に邁進していく所存でございます。今後ともよろしく願い申し上げます。

(静岡県結核予防婦人会 事務局)



出版のご案内

結核予防会発行図書をご愛読いただき誠にありがとうございます。



新刊

平成21年改訂版 1月発行 定価2,730円

「感染症法に基づく 結核の接触者健康診断の手引きとその解説

—結核の接触者健診Q&A付き—」



予防会からのおすすめ!

保健所等関係機関では、「平成20年改訂版 **感染症法における結核対策保健所の手引き**」とセットでご購入していただくことをおすすめいたします。

平成21年改訂版 3月発行 定価1,260円

「**医師・看護職のための結核病学 第6巻 肺外結核症・非結核抗酸菌症**」

平成21年3月発行 定価1,995円

「**保健師・看護師の結核展望 92号**」

発刊

予定

平成21年4月中旬発行 定価3,150円

「**潜在性結核感染症 —概念と診療のポイント—**」

予約受付中!

☆ 書籍の注文および出版案内をご希望の方は
(財)結核予防会静岡県支部までお問合せ下さい。

TEL : 054-261-2512 FAX : 054-261-9474

☆ HPでは最新情報を掲載しております。どうぞご利用ください。

HP : <http://www.jatahq.org>



編集後記

第2回ワールド・ベースボール・クラシック (WBC) で日本チームが北京五輪金メダルチームの韓国を5-3で破り2連覇を達成しました。

この大会1次ラウンドから絶不調のイチローが宿敵韓国との決勝戦延長10回2アウト2、3塁から値千金のセンター前へ2点適時打。「100年に一度と言われる不況」など暗い話題続きで落ち込みぎみのなか、涙が出るほどの快感でした。

大会のMVPにはアメリカなどを押さえた松坂が2大会連続で選ばれたが、他にも決勝やキューバ戦に好投の岩隈、途中帰国の村田、決勝打のイチローや青木などみんながMVP。勿論監督の原さんも。 (T.M)

題字：田中隆 (元支部職員) 表紙撮影：村木弘知 (元県職員)